

# 令和 7 年度 恵庭市観光推進協議会(第 5 回)議事録(公開用)

1 期 日 令和 8 年 2 月 18 日(水)15:30～ 花の拠点(はなふる)センターハウス

2 出席者 恵庭市観光推進協議会委員 13 名

(高野会長、伊賀崎委員、内倉委員、尾谷委員、菊地委員、小泉委員、小関委員、瀬恒委員、土谷委員、出南委員、沼倉委員、秦委員、本間委員)

事務局 6 名

(江川経済部部長、嘉屋経済部次長、大林花と緑・観光課長、高橋主査、小井主査、伊里)

※欠席委員(中尾委員)

3 報告

(1)交流や訪問の拡大による地域経済力の強化に向けた調査(地域経済循環分析委託研究業務)の結果について

●資料 1「交流や訪問の拡大による地域経済力の強化に向けた調査報告書」に基づき、事務局より説明。

<質疑>

なし

4 議事

(1)第 3 期恵庭市観光振興計画(最終案)について

●資料 2-1「第 3 期恵庭市観光振興計画(最終案)全頁」、資料 2-2「第 3 期恵庭市観光振興計画(最終案)修正箇所対照表」について、事務局より説明。

<質問・意見>

【委員】これまでの意向が全て反映されており、良いなと思った。

○推進体制

【委員】28 ページの推進体制について、前回の協議会では口火を切らせていただいたと記憶しているが、今回の最終案では、文章を全体的に見直すなど、いろいろご検討いただいた結果であると思いながら拝見していた。

観光協会が中心的な役割を担っていく方向性については変わりがないという説明があったため、その上で事業者間の連携や行政と観光協会の役割、これからの恵庭の観光を考える会等を通じた連携が、より地域づくりを進める組織として検討する余地を残したような書き方になっていると理解した。

気になる点として「恵庭観光協会は…観光地域づくりを推進する中心的役割を担っていきます。」と断言している一方で、「観光協会がツアー等の販売を行うなど、大幅な事業拡大を行う際には人的・財政的支援を検討します。」という文章がある。これは、今後観光協会が発展的に観光地域づくり推進の中心的役割を担っていくとなった場合には、おのずと人的財政的支援が必要であるにも関わらず、わざわざ「ツアー等の販売を行うなど、大幅な事業拡大を行う際には」と記載する必要はあるのだろうか。その点についてのご見解を伺いたい。

【事務局】記述内容については非常に悩んでいたが、様々な検討の結果、具体的な例として、造成するソフトの販売を行うなどという明確な事業拡大が図られた際には、市として積極的にバックアップしていくということを明確に示す文章となった。

現状のままであれば、すぐに人的支援を行ったり、財政的支援をさらに強化したりということは難しいため、その線引きを行うための文章となっている。

【委員】役割分担や今後の見通しが関係者間で共有されており、市民から見て理解しやすい表現であれば、問題ないと思われる。

#### ○計画内容

【会長】それでは、資料 2-1「第 3 期恵庭市観光振興計画(最終案)」について、お認めいただくということでよろしいか。

【委員】異議なし。

#### (2)その他

##### ○委員の皆様より一言

【会長】今後 10 年間、第 3 期恵庭市観光振興計画をもとに観光推進を進めていくということで、今後の恵庭について、皆様からご意見を頂戴したい。感想でも構わない。

【委員】「暮らすように訪れる」というコンセプトのため、生活者目線でオーバーツーリズムとは対角になるような計画で観光を推進していくという印象を受けた。

計画にもあったように、付加価値を上げていくような取組が全体として求められていると感じている。サッポロビール北海道工場の工場見学についても、全て有料化し、予約制で参加者を絞ってツアーを行っている。無料で自由に訪れて見学できるようにしていた時と比較すると、参加者の満足度やブランドに対する認知度が高まっている。また、確実に増えてきているインバウンドの方に対しても付加価値を上げていく必要性を感じている。サッポロビールでは、今までインバウンドの方にも日本語の説明のみであったが、オプション料金をお支払いいただければ、翻訳機を貸し出してツアーを受けていただく形としている。このような付加価値を高める取組をやっていく必要があると思っている。

【委員】今後 10 年、これを目指すというベースが出来上がったと認識している。これから具体的なことを深め、積み上げていき、恵庭に住む方たちに、「暮らすような観光」ってこういうことだったのだと認識されるように、今行っていること 1 つ 1 つを計画に照らし合わせながらブラッシュアップしていくことが大事だと感じた。

【委員】最終案において、「10 年という長い期間の中で生じる様々な可能性を排除しないよう、観光施設等の受容性を追加」するための修正や、「優先順位が刻々と変わっていく」という文章の追加について、個人的に良いことだと思っている。10 年後の観光の様式や好まれるコンテンツはおそらく予想できないものである。そういう意味で恵庭には可能性がたくさんあり、どのようなきっかけで恵庭の観光が発展していくかということは予測することができないため、柔軟な姿勢で様々なものを受け入れ、変化に対応していくことが大事であると考えている。

先日、数十年営業されている床屋さんと話した際に、外国の方が急に来店し、携帯電話の翻訳機を使っ

て髪を切ってほしいと依頼されたことがあるとの話を聞いた。外国の方は、日本の伝統的な床屋に行ってみてみたかったとのことだった。このようなことが 2、3 年前から起きており、確実に変化が訪れている様子が伺える。このような変化を恵庭の資源の 1 つとして受け入れ、恵庭の観光の中でうまく拾えるような取組ができていけば良いと思った。

【委員】今年度の秋から、「これからの恵庭の観光を考える会」を設立し、構成員の方々から頂戴したご意見や現場の声に加え、本日も報告いただいた北海道文教大学さんの調査結果によって、また新たな恵庭の実態が得られたと感じている。新年度からは、今できるところからどのように手をつけていくかという段階であるため、速やかに進めていきたい。計画冒頭にある「市民の力による交流の推進」という記述を踏まえ、「観光によって恵庭に良いことがある」、「観光に関わることによって私たちの住むまちが良くなり楽しくなる」ということが実感できるような取組を、恵庭観光協会が中心になって進めていきたい。そのためには今後、広く皆様とご協力を取らせていただきながら進めて参りたいと考えている。

【委員】計画について、非常に現状と先の恵庭の状況に即した内容であると感じている。特に、成果指標が量ではなく質を目標にしている点や、市民の力を借りて既存の資源を活かしていくという点が、今の恵庭に合っていると思う。

推進体制について、自分も事業者として必要であると感じている。横の繋がりが少ないため、繋がりを強化することによって、事業者間同士で様々なアイデアを出し合い具体的な策を見出したり、共通の悩みを共有し、それに注力したりということに繋がると思う。

【委員】本計画によって恵庭市としての方向性が明確になったため、我々も恵庭を盛り上げる団体の 1 つとして恵庭市の方向性に合わせていろいろ考えていけるという点で非常にためになり、活動が行いやすくなる資料であると感じている。この資料をメンバー等に共有し、恵庭をもっと盛り上げていけるよう、活動をより深くしていきたいと思う。

【委員】協議会を何度も重ね、何度も校正していただきながら、現状に沿い、10 年後を見据えた素晴らしい計画ができたと思っている。計画が完成し、これから周知をしっかりと行い、実行していく必要があるため、農業者組合やかのなの直売所を含め、関係機関の皆様と協力させていただきながら、しっかりと実行できるように対応していきたい。

【委員】素晴らしい計画ができたのではないかとと思っている。国の観光立国推進基本計画では訪日外国人旅行者数 6000 万人を目標にしており、国としては観光客を増やすという目標を掲げている。これはただ旅行者数を増やす訳ではなく、地方に誘客を広げていく可能性があったり、国として空港の入口の戦略があったりということであるため、恵庭でも享受できるような施策を進めていくことが望ましいが、今までのマスツーリズムのような観光客をただ増やすという形ではなく、地元の暮らしを優先し、それを分かち合うようなフレーズは、これからの恵庭の観光の在り方として地に足がついた計画であると感じている。

一方で、基本理念サブタイトルに「循環する未来を目指して」と書いてあるが、ご報告いただいた北海道文教大学さんの調査結果によると、経済波及効果が 1 に達しないということで、これはいくらお客さんが

来てくれても地域経済へは波及しないという実態を示している衝撃的な数字でもある。そのような部分については、地域内でいかに単価を上げていくかという視点に加え、ガーデンツーリズムと絡めた花卉生産や、6次産業化の開発など、域内消費をどのように増やしていくのかという視点についても、今後の具体的な事業計画で展開されていくことを期待したい。

【委員】非常にわかりやすく、まとまった計画書となっており、今後が楽しみだと感じる。全道において、本計画の推進体制のような座組はなかなかないため、今後視察等に繋がると良いと思う。

2000年にインバウンド旅行客を積極的に受け入れようとなってから、今年で26年目を迎えることになる。2000年当初は、団体旅行を行ってきたが、20年を過ぎ、団体旅行ではなく、個人の特徴のある旅行のような特化した需要になってきている。そのような方向性に対応するためコンテンツの磨き上げを行い、絞っていくことが今後必要であると考えている。

えこりん村さんにガーデンエリアを閉園した理由を尋ねると、ガーデニング人口が減少しているからとのことであった。千歳・恵庭・北広島・札幌含めて、ガーデニング人口は減ってきているため、1度リセットし、次の投資に行きたいという気持ちはあると思うが、ガーデニング人口がゼロになるわけではないので、恵庭の市民が大切にしてきたガーデニングと何かもう1つを加えることにより、イノベーションが起き、新しい恵庭の価値が生まれるのではないかと考えている。例えば、ガーデンにレストランがある等、ガーデニングをベースにして何かを加えることが、今後非常に重要になってくると感じる。

小樽は現在観光で盛り上がっているが、以前はそうではなかった。運河を守ろうとする市民の力が強く、それが集まり観光地ではなかった倉庫街に北一硝子ができ、運河が整備された。運河を埋めようという道路開発の方針により、小樽の経済が下がってきたときに、市民の力のおかげで小樽の観光が強くなった。恵庭においても、ガーデニング人口は減少するが、引き続きガーデニングを大切に、何かと合わせたコンテンツにすることについて、楽しみに思っている。近年、観光客が地域の方に行こうという潮流があるが、その土台にあるのは、市民の方が大切にしているものが観光コンテンツになっているという点が非常に重要であると思っている。

観光地を作る上で、一番初めに行く場所(ファースト・デスティネーション)を作ろうとするが、大概失敗する傾向にあり、次に行く場所(セカンド・デスティネーション)が儲かると思っている。恵庭市は、新千歳空港と札幌の間にあるため、札幌に行く途中や、小樽から空港に向かう途中など、2番目にゆっくり来てもらえる立地ということで、市民の生活サイクルと、観光のサイクルがちょうど良く合致するという意味でも、北海道にはなかなかない観光コンテンツが今後できるのではないかと期待している。

【委員】暮らすように訪れるまちというコンセプトで、普段の生活に密着していくことが大事だと感じた。

計画の中で、花・自然・スポーツの3つの柱が提示されているため、今後もしファイターズ2軍が恵庭に来た場合でも、スポーツばかりに力を注ぐのではなく、3つの柱に対し同じ熱量で今までやってきたことのブラッシュアップを行い、地に足がついた観光をぜひ推進していただきたいと思う。

【委員】キャチコピーの「暮らすように訪れるまち」という言葉がとても気に入っている。恵庭は、特別な観光といえるものがない場所であるが、恵庭を大好きでいてくれる人がおり、恵庭の話をするとう恵庭の良いところをたくさん話すことができるまちであると思っている。恵庭には、情熱のある人たちがたくさんいるため、恵庭にはこんなに素敵な人がたくさんいて、その人たちによって作られてきたまちであるとい

う情報を発信できると良いと思った。観光地のみを紹介するのではなく、恵庭・花・人・物をセットにして紹介することによって厚みが増すと感じるため、プラスアルファで人の紹介もできると望ましい。

【委員】花いっぱい文化協会が 65 年前に設立しており、恵庭には花の歴史があるため、それに携わる上で今後どのようにしていくかということは、課題であると思っている。自分自身、恵庭で育ち、恵庭で子育てをしてきて、今もボランティア活動しており、先ほど委員がおっしゃったように恵庭を愛する方がたくさんいるとを感じるため、横の繋がりを持ってみんなで観光を盛り上げていくことができれば良いと思った。

【会長】本計画の表紙はとてもインパクトのあるものとなっている。この写真は、恵み野駅近くのお店の前で撮られたものだと思うが、お店を知らない人が見ると、山の中の景色と思う人もいるかもしれない。

恵み野の街づくりは、車道から車を入れさせずに、後ろから車を入れるような仕組みとなっており、歩道とその脇に市の土地で花壇を設け、その花壇は住民の方が植栽等を行うというような、非常に先進的な技を取り入れられている。この表紙は、その空間が今も生きているということの象徴となる写真であると思う。街の真ん中にこのような場所があることは、恵庭の資源であるため、この写真を表紙に据えた強い思いを感じる。しかし、この 1 枚だけを見ると街中にあるお店の写真ということがわからないため、駅の近くや街中にこのような場所があるということを伝えられると望ましい。計画書とは別に、パンフレット等で知ってもらえると良い。

恵庭の課題として、恵庭ブランドの食やお土産がないという問題が挙げられている。小樽にはルタオという洋菓子店があり、小樽に行ってルタオを買おうと観光客が沢山訪れるが、実はルタオは小樽が本社ではない。そのような形で、恵庭が本社でなくとも、「恵庭と言えば」というお菓子や食を作っていってほしい。観光だけではなく、民間の方の力がなくて立ち行かないかもしれないが、空港等で恵庭らしいお土産が無いのはもったいないため、課題解決に向け進めていただきたい。計画のコンセプトにもあるように、どこかへ向かう人に途中で恵庭に立ち寄っていただく、あるいはどこかへ向かう人にお土産を買っていただいて、恵庭を知ってもらい、恵庭に来てもらう、ということが続けていくと恵庭らしい観光がより前に進んでいくと思う。

まずは、意図のこもった大変ユニークな計画書を作ったことを全国に広め、なぜ表紙にこの写真が使われているかということを知っていただくと、計画の中身を読まなくても理解していただけるのではないと思う。

本計画のコンセプトを前に進めていくことに期待する。

【事務局】今回で 5 回目の協議会ということで、最初にご意見をいただくことが難しいかもしれないと考えていたが、予想以上に様々なご意見をいただき大変ありがたかった。

表紙の写真について、恵庭の観光を象徴するというイメージで設定したため、それが伝わったのはとても嬉しく感じる。

#### ○今後のスケジュール

【事務局】今後の進め方について、本日最終的なご審議をいただき計画案が確定したため、3 月中旬に開催される議会の経済建設常任委員会にて報告を行う予定である。その後、3 月下旬に成案化されるとい

う流れで進めさせていただく。

また、今年度は6月から本日で5回目の協議会ということで、計画の更新について非常に多くご審議いただきありがとうございました。来年度も引き続き皆様に委員としてご参加いただけるというふうにお聞きしておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

以上